



真似る天才の子ども達!



保護者が見本!

「幼児期は100%模倣期」とシュタイナー博士が提唱しているように、子どもはおぎゃーと生まれて一番身近な保護者の全てを真似していきます。癖や仕草、歩き方などに始まり、表情、使う言葉、言い方などがいつの間にか、子ども自身の中に積み重ねられています。

ココがポイント

1 子どもは親の鏡!

子どもがどんな真似をしているかを観察し、大人の行動や仕草を振り返りましょう。もし、真似をされてほしくない仕草や癖を見つけたら、真似してほしいことや習慣化してほしいことを話し合い、子どもに見せられるようにしましょう。

2 見せるときはニコニコ見せる!

例えば、掃除、片付け、洗濯ものをたたむなど、今後真似してほしいことは、ニコニコ笑顔で楽しそうに見せましょう。積極的にお手伝いをしてくれる習慣が身に付きますよ。意識して見せてきた姿は必ず真似をしてくれるようになります。

3 真似をして学ぶ土台を!

4、5歳～小学生以降は、先生や先輩を見本にして学ぶことが多くなります。「学ぶ」の語源は「真似ぶ(まねぶ)」からきているとも言われています。幼児期からその土台を少しずつ築いていけるようにしましょう。



こちらもおすすめ!
子育てに対するあたたかい言葉が
国境を越え、世界中で
愛されている一冊
(ドロシー・ロー・ノルト博士著)